

オンライン講座 総合文化を学ぶ科ハイブリット

テーマ : 大大阪モダニズム近代大阪画壇の魅力

日時 : 2022年 5月 31日

講師 : 橋爪 節也

当日参加受講生: 13名 (在籍14名)



モダンアートが喧伝された大正から昭和初期、芸術も独自の発展を遂げました。歴史と伝統のうえに、最新のモダンな都市文化が形成されたことを背景に描かれた絵画。それらの面白さ、魅力を橋爪節也先生がお話しくださいました。



大正の末ごろに市域を拡張した大阪市は、近代化により日本最大の工業都市となり「大大阪」と呼ばれるほどに成長・繁栄しました。

東京（当時）の人口を抜き、大阪が世界の都市人口6位になった時代の頃のことです。

経済の興隆、鉄道網の発達、デパートや娯楽施設の誕生、薬問屋の統合、出版業など様々な産業の近代化が進みました。それに芸術家達も寄り添った形でモダンアートが形成されていきました。

この時代に活躍した画家達の描いた中之島や堂島界隈の風景を対比しつつ、其々の画家の持つ個性や、質感の表現、圧縮効果、雨の効果など具体的にかみ砕いて説明してくださりととても分かりやすかったです。なじみ深い大阪の街の古今だけに非常に興味深く、書き手の工夫も良く理解できて楽しい講義に聞き入りました。

紹介された画家の一部として

- ・ 美しき水辺、そして自然…織田一麿
- ・ モダン都市の姿…鍋井克之・小出檜重
- ・ 伝統とモダン都市 - 日本画家の場合…生田花朝、池田遙頓



「みんなのまち 大阪の肖像」は、中之島美術館の開館を記念して“大大阪”の時代、世界のアートの新潮流が流入した“モダニズム心齋橋”をとりあげ、モダンな都市文化をテーマにした展示会です。大阪の画家達がどんな風に近代大阪を描いたかを楽しんで頂けるとと思います。7月3日（日）まで開催されていますので、是非足を運んでみてください。（担当 藤林）